



にじ

vol.4

JA北海道厚生連
遠軽厚生病院
遠軽町大通北3丁目
tel (01584) 2-4101

平成18年2月

Rainbow

病院の安全管理について

JA北海道厚生連遠軽厚生病院
副院長 矢吹 英彦



現在、副院長と医療安全室室長を兼務している矢吹です。今回「にじ」第4号を発刊するに当たり、医療安全室の紹介をしたと思います。

医療安全室は当院では平成16年4月に発足し、現在私と野田医療相談担当、奥山専任セーフティマネージャーの3人で構成されております。場所は現在はMRI検査室の奥にあり分かりづらく少々手狭ですが、何かあればいつでもお越しいただければ幸いです。春にはもう少し広いところに引っ越す予定ですので、皆様との対応する場所も、もう少しくつろげる雰囲気出来るのではないかと考えております。

医療安全室とはその名の通り、主に治療のミスを防ぐためにある部門ですが、その他

に患者の皆さんからの提言、苦情などにも誠実に対応するために作られた組織でもあります。また投書箱に入れられたご意見も管理職、事務と連携し対応策を講じています。

医療安全部門では日々起こる小さなトラブルも報告してもらう「セーフティレポート」制度で、あらゆる部門からのトラブルを報告してもらっており、その対策をたてております。年に2回専門家を招き「日たつぷり講習」を行い、各部門の安全管理者を養成してまいります。この制度が出来てから3年たち、現在では数十人が「セーフティマネージャー」となっています。年に2回は全職員を対象に「医療安全教育」を行って、職員の安全意識の向上を図っています。

提言・苦情に対しては前に述べたとおり、安全室はいつでも門戸を開放しておりますので、いつでもお越し下さい。これまでもいろいろな方にお越しいただいており、様々な貴重なご意見を頂いております。また投書箱も貴重な情報です。これまでも正面玄関への鍵付きロッカーの設置、正面玄関奥のくつろぎコーナーの設置、新聞販売機の設置など、貴重なご

意見で実現した事がたくさんあります。これからもよろしくお願いたします。

遠軽地区における当院の役割は被別からの相次ぐ医師の撤退もあつて、益々重要になって来ております。現在一日平均約二千人が外来に来ており、その内約30%弱が被別地区から来院してあります。事実上この地区の中核病院となっております。

しかし住民の皆様から見ればまだまだ至らない点があることは重々承知しております。心ない職員の対応で不快な思いを持たせてしまった事も、残念ながらまた根絶できなわけではありません。現在、投書を含めた意見の9割以上が批判の内容です。誠に申し訳ありません。しかしながら「医療安全室」は、たまにあるお褒めの言葉を胸に、より良い病院にしようとお力しております。

今後とも職員一同医療従事者たる自覚を持って地域の中核病院として「選ばれる病院」をめざし努めて参りますので、皆様におかれまして是非、非難のための非難ではなく、当院にしっかりとしてもらうための建設的な提言を持った批判をお願いいたたく存じます。何卒よろしくお願いたします。

部門だより

【効能】

にんじんには、カロチンという栄養素が非常に多く含まれ、緑黄色野菜の王様といえます。カロチンにはいくつもの種類があり、にんじんにはβカロチンが豊富です。βカロチンには抗酸化作用があり、肝臓の機能を助けたり高脂血症、

【調理のポイント】

カロチンを多く含んでいるのは外側の皮に近い部分なので、丁寧に洗って皮付きのまま調理するのが栄養的には最も適しています。ただし、皮にはアクがあるので、生で食べる場合は皮を薄めにむくか、包丁の背でこそぎ落とすと良いで

にんじんって

栄養科より 野菜のおはなし

えらい

動脈硬化を予防する効果があるといわれます。βカロチンは体の中でビタミンAに変わり、皮膚や粘膜を健康に保つ働きがあります。にんじん1/2本で、一日に必要なビタミンAを補うことができます。にんじんは葉の部分も栄養価が高く、ビタミンAは根の2倍、カルシウムは根の5倍含まれ、鉄分も多く貧血気味の方にはおススメしたい食材です。店頭に出回ることは少ないですが、入手できた時には捨てずに食べたいものです。

しょう。また、カロチンは油に溶けるビタミンなので、油と一緒に摂ることで吸収率がより高まります。カロチンの吸収率は生のにんじんで30%、油を使うと50〜70%とかなり差があります。カロチンを上手に摂るには、天ぷらや金平、炒め物や油入りのドレッシングを使うとサラダなど、油と一緒に使うとより効果的です。



遠軽厚生病院 地域医療連携室の紹介

●設立 日15年8月

●機能の整備強化 日16年8月

（連携室の独立・専任スタッフ配置）

●専任スタッフ 室長 山本 玲子

●目的 他の医療機関との連携窓口となり、診療情報による依頼検査予約、診療受付を円滑にすすめる。

●役割 ①受診、検査等の調整と決定・受付の送付

②診療情報提供書（検査結果等）の送付

③他医療機関への広報活動

④他医療機関への患者様紹介

⑤他医療機関との相互関係

●実績（連携室経由件数のみ）

取り扱い数 月平均26件

（日16年10月〜日17年11月）

●主な連携施設

①遠軽学田病院

②道立紋別病院

③遠軽共立病院

④北見赤十字病院

⑤旭川医科大学病院



連携室の風景

□：外来です。病院へ紹介したい患者さんがいます。家族にあつてくれませんか

連携室：はいどうぞ。

ある日の家族：今、先生から病気のお話聞いてびっくりして喉が渴いてこの館頭いいですか？



ある日の家族：大学へ行く地図書いてください。大学の駐車場はどうなってますか。

ある日の家族：先生には、1度札幌で診察受けたいって言ったんですけど、本当は向こうで治療も受けたいんです。

言うところ、こちらに悪いと思つて。

ある日の家族：札幌へ連れて帰りたいんですが、転院した先で入院期間が長くなったら退院って言われませんか？他を紹介してくれるでしょうか。

連携室には、悩み戸惑う家族の方や患者様がいらっしゃいます。

耳鼻咽喉科の病気

はつめい

最近のめざましい医療技術の進歩に伴い、さまざまな病気に対して治療が可能となりつつあります。これまでの目標であった「長生きをする」からさらに「生活の質の向上」や「生きがいのある生活」が求められています。

21世紀は感覚器の時代とも言われています。感覚器とは五感を受け持つ器官で目(視覚)・耳(聴覚)・鼻(嗅覚)・舌(味覚)・皮膚(触覚)などがあります。聴覚障害(耳の聞こえがわるい)、嗅覚障害(味がしない)などは耳鼻咽喉科の病気との関わりもつく生活の質の向上を目指すうえで大きな問題と考えられます。今回はその中でも聴覚障害についてわかりやすく述べてみたいと思います。

聴覚障害(難聴)

聞こえが悪いと家族・周囲の人とのコミュニケーション障害があったり、言った・言わないでいらぬケンカがおきたり、わかつたふりのうなずきが生む誤解などが生じ、気分がふさがちになり、社会との関わりを積極的に持てないなど生活の質の低下をもたらす原因の一つとなります。

では聞こえが悪い時どうするか？まずは専門医の診察をうけることをお勧めします。ひとくちに難聴といっても、音そのものが聞き取りにくい場合と、音

図1.音の聞こえるしくみと難聴の種類



は聞こえるが言葉が理解しにくい場合があります。難聴の原因・程度はそれぞれで治療法も原因・程度により様々です。

味覚・嗅覚 聴覚障害 について

耳鼻咽喉科主任 執行 寛

① 音の聞こえるしくみ

音は外耳(空気を振動させて伝わり)から入り、中耳(鼓膜、耳小骨)を経由して内耳(音は電気的な信号に変換され)から聴神経を経て脳へと伝えられます。この伝達経路のどこかが障害を受けると難聴が生じます。

② 難聴の種類、疾患

難聴には大きく伝音性難聴と感音性難聴に分類されます。伝音性難聴は音を伝える部位に問題があるもので、外耳、鼓膜または中耳の障害によって生じます。代表的な疾患としては耳垢検査、中耳炎、鼓膜穿孔などがあり、お薬や処置、手術をすることにより聞こえの改善が可能です。もう一つは感音性難聴で音を感ずる部位に問題があるもので、内耳や聴神経、中枢に障害のある場合に生じます。代表的な疾患としては加齢による難聴、感音性難聴、薬剤性難聴、メニエール病、突発性難聴などがあります。感音性難聴は聴力の改善が難しいものもありますが、この中でも突発性難聴のように、急に、急なもので、回復の可能性があり、できるだけの早期の診断治療が重要です。専門医にご相談され

伝音性難聴：耳垢・鼓膜穿孔・中耳炎など

処置・手術

感音性難聴：加齢・騒音・薬剤など

突発性難聴 メニエール病

補聴器・生活改善グッズ・人工内耳

図2.難聴の種類と治療

以上、講演させていただいた内容を、紙面に書かせて頂きました。難聴につきましては早期診断、早期治療によつては改善する疾患も多々ありますのでお困りのことがありましたらお気軽に当院耳鼻咽喉科までご相談ください。最後に地域の皆様のお役に少しでも立てますよう考えておりますので今後とも宜しくお願ひ申し上げます。

重要です。その他、加齢による難聴ならは補聴器、生活改善グッズが適応となります。最近では補聴器も役に立たない高度の両側性難聴では、人工内耳という方法も試みられています。

③ 加齢による難聴と補聴器について

加齢者の難聴の特徴として以下のことがあります。

1. 高い音から聞こえなくなる
2. 徐々に進行する
3. 左右差なし

高齢者の聞こえに関する悩みとしては「音としては聞こえるが何を言っているか分からない」「対での話は分かるが、会議のような複数の中での話の内容が聞き取れない」「講演会など広い会場で話が聞き取れない」というようなことをよく相談を受けます。補聴器の適応を考えると、まずは聴力および耳の状態を耳鼻咽喉科専門医に正しく評価してもらうことが大切です。耳の病気(耳垢、中耳炎、鼓膜穿孔)がないかどうか、また定期的な聴力検査も重要です。その上で、必要であれば自分に適した補聴器を購入することができます。形や耳かけ型、最近では自分の耳の穴の形に合わせたオーダーメイドの耳あな型の補聴器や高度難聴者用の補聴器もあります。補聴器は自分の体の一部となるものですから、購入後のフィッティング(調整)やメンテナンス(維持、補修)も大事です。不都合があれば当院にも補聴器外来がありますのでご相談ください。

健診センターのご紹介



休憩室



待合ロビー



保健相談コーナー



受付カウンター、計測コーナー



編集 記

後

遠軽厚生病院広報誌として「にじ」第4号を発刊することになりました。地域の患者様、院内各部門から発信する情報を集約し、医療情報としてわかりやすく提供していきたいと思っております。今後とも広報誌「にじ」を継続していきますので、ご意見・ご要望がございましたら「にじ」編集委員会までお願いいたします。